



ダイキン森の観察会 8月11日

ダイキン工業様の協力を得て、ダイキン滋賀の森において自然観察会とワークショップを行いました。
池田勝先生案内により、森の中での宝探しをし、視線を変えながら、森を歩きました。参加者は、食い入るように覗き込んだり、芝生ではバッタを追いかけたり、真夏日でしたが、元気に走り回っていました。森の観察を終えてからは、室内にてグループにわかれ、ワークショップを行いました。(堀野)



森の宝ものを探そう



ワークショップ

ダイキンの森物語 私が〇〇だったら

午後からは参加した子どもたちが、生きものの気持ちになって物語を考えて発表してくれました。

大カマキリの暮らし

ほくは大カマキリのこども
4月生まれで、もう2回脱皮したよ。
大人になるまでにもう2回脱皮するよ！
ある日の出来事です
「おなががすいたな〜」
「あっ！あれはショウリョウバッタ・・・」
「でも・・・大きすぎて食べられないなあ？」
「おっ、あれはオンパバッタ！」
「おいしそうだなあ。」
「これならいける！よし捕まえた」
「あっ！大きいカマキリだ！」
「このままだと見つかって食べられてしまう。どうしよう。」
「そうだ！あの大きな葉っぱに隠れよう！」
カマキリはどこかに行ってしまった。
「これでゆっくりと食べられる」

進行：井阪

私は、松ボックリ

私はダイキンの森に棲んでいた松ぼっくりです。
私は種をたくさん持っていて子孫をたくさん残すために生まれてきました。
でも、私の中にいた種たちは飛んでいき、私の役割は終わってしまいました。
ある日、ダイキンの森の松の木の下で風を吹かしていると、見学にやってきた女の子が私を見つけました。そのまま、女の子の家に連れて行ってくれました。
どうしたところか、私は、家の水槽の中に入れてしまいました。
水の中では、どうしようもないのですが、水の中で考えました。「私はやっぱり、森が一番大好き！」

ヤツデの話

ほくは、ダイキンの森深くに住んでいるが、将来は天狗の葉っぱとして昇格できると思っていた。たまに人間がやってきて、私を切ってくサギの形などに変えてくれたりする。これも運がいいヤツデだけ。
まあ、日ごろは人はめったに来ないから、ヤツデ仲間と一緒に仲良く生きていくと思っていた。だが、一枚の葉は天狗の葉っぱになるような立派な葉、でも2枚目の葉は虫に食われてしまった。これなら、ほくも、虫に食われる運命かと思っていた。
ところがある日、観察会があって子どもたちなどがやってきて、私をつかみ取り、ウサギの形にしてくれた、ウサギにそっくりだったので、一緒に観察に来ていた女の子が、ほしくなり、女の子の手に遊んだ。
ほくは、天狗になりたかったけれど、僕のことをヤツデとしてきちんと覚えてくれるだろう。天狗にならなかったけれど、女の子に覚えてもらえただけで十分かな？

ワークショップ 7月16日 2022夏 水のろ過実験

環境に関するワークショップを実施しています。内容は、展示している教材・教具や身近な素材を活用して実験を行い、環境について考えて、暮らしに活かそうとするものです。
7月16日に「ボーイスカウト草津17団ビーバー隊」の10名が、「水のろ過実験」に挑戦しました。ペットボトルに石・砂・炭・ろ紙などを使ってろ過装置を自作し、様々な水のろ過実験を行い、水の大切さ、災害時に役立つ浄化方法と上下水道施設のろ過技術の仕組みについて学びました。(井阪)



マイろ過器を作ります。材料選びがポイント。

イネ!



石・砂利・砂・炭・綿の透過状況を調べます。



凝固剤となるホウ酸、炭酸カルシウムで、物質を沈殿させます。



水道施設等で行われているろ過実験をしています。



自作ろ過機の実力を確認
透過した水にろ過されました。

この実験を通してわかったこと



- ①雨水や川の水も地下の地層を通ってろ過されている。
- ②ろ過されている水を井戸からくみ上げ、生活用水や酒造りの水に生かされている。
- ③草津の河川は、大井川が多く、川底の土砂でろ過された水がまちの水路を潤している。
- ④水道水(飲料水)が作られる仕組みを可視化できた。
- ⑤泥水やみそ汁、牛乳などのろ過実験から、物質の粒子はろ過できることがわかった。